

まとめの学習 音読会を開く

一 準備 ○さんの全文朗読（子どもたちの音読会の参考になるように…）

ゆつくりと読みながら難しい語句に補説を入れて読む。

- ・○さんが加えた方がいいと思う言葉を決める。
- ・但し、話の流れに掉ささないようにすることが大事です。私なら、

「大きなくじらが現れました。（空のどこにいたのかな。面白い話が始まりそうだな）
止まれの合図をすると、鯨も止まりました。（大きいのによく止まれたなあ）

あの鯨は、きつと学校が好きなんだね。（きつと、がいいねえ）、

というように、感想も含めて独白する感じで補足する。

二 発表会

- 1 分担するか所を決める。（○さんが決めておく。班の数によって、二回目になる班もあり）
一班から順に、1（p4～5） 2（p6～7） 3（p8～9） 4（p10～13）
- 2 それぞれ、地の分を読む子、会話部分は「子ども」「先生」「くじら」の役の子を決める。
班の人数により、子ども役は三人でとか、を指示する。
- 3 各班毎に練習する。
- 4 一班から順に発表させる。（聞き方を指導しておくことが重要）
班の発表が終わるたびに短評する。（よいところを短く）
- 5 全体の発表が終わったところで、子どもたちの感想を聞く。

三 まとめ

○さんの全体感想を発表し、家の人に好きな場面を読んで聞かせるように伝える。

先ほどの資料の補足

第三次で新出の漢字・カタカナを扱いましたが、文章の中での「語句」の働きを、文章の核心をつかまえたところで、その核心と結びつけることによってより印象に残ります。そして、語彙を増やす遊びをほんのちよつと入れると、興味関心を広げられます。「天空」なども「天空の城」という話にもつながります。一度にたくさんやっても、子どもは覚えられません。（特に、力の弱い子には）下の方を空けておいたのは、そのためです。三日くらいかけて少しずつ家庭学習させます。

よく分からないところがあるでしょうが、それは当たり前のことです。余り気にしないで分かったことをやってみてください。そこから、学んでいくという心構えが大事だと思います。

「どの子も落ち着く国語指導」が私たちの会のホームページです。時間が空いた時に読んでみてください。

○□様

桐田 和雄